

ずいそう

沖繩空手は琉球王国(現・沖縄県)発祥の伝統文化で「平和と礼節の武道」といわれています。先人の格言に共通しているのは、戦いを避ける平和堅持の思想です。「空手に先手なし」「人に打たれず、人を打たず、事なきを基とするなり」「長



沖繩空手は琉球王国(現・沖縄県)発祥の伝統文化で「平和と礼節の武道」といわれています。

年修行して体得した空手の技が、生涯を通して無駄になれば、空手道修行の『目的』が達せられたと心得る。特に感銘を受けたのが、沖繩空手の始祖のひとり、松村宗棍の遺訓の一節。「武は暴を禁じ、兵を敢め、人を保ち、功を定め、民を安んじ、衆を和し、財を豊かにすと、是れ武の七徳と申し、聖人も称美し呉れ候段、書に相見え候」

空手道

坂本尚子(学芸員)

「武の七徳」は、『春秋左氏伝』という中国春秋時代の歴史書の注釈書からの引用で、「武」とは戈を止めること、つまり軍事を止めるという意味だと述べられ、それに続いて「武」と「暴」の違いが解説されています。中国古典しかも覇権争いの戦記から「武」のありかたを読み解いて、平和や為政哲学を説いた空手家の英知と剛毅、これこそが「空手道」。

「武」による支配が「覇道」。その対極が「徳」による統治で「王道」。ここまではまた是非を論じられる範疇にあるといえるでしょう。では、隣国侵攻、紛争、国連憲章や国際法違反の先制攻撃といった「暴」は? 「非道」です! 止めなければ...。空手道に做つて平和を訴えるも、道の険しさを痛感。修行を積まないといけないようです。

チビスカーフ大事
今年は赤にしようかな...

日頃買わない花も買いたくなる月
李李即のせい?



ルッコラの双葉はハート型

UV加工のパーカー、これからいいかも

日差しも汗対策もできる帽子がほしい!と布製のつば広の帽子を探しているところだ。日除けになり、汗まみれになっても洗濯できるのはやっぱり魅力。なかつたら作ってみるか?との思いも保存しとく。買う・作る両面から探してみたい。日差しも満々になる頃までには!

UVカット加工された衣類や小物が目につくようになった。日傘

ミとして定着し、乾燥したところは深いシワに変化していくのが日焼けだ。

しか使つてなかつたけれど、Tシャツやパーカー、ストール、カーディガンなど衣類も豊富らしい。今年はこちらとUV加工の衣類に気をつけて見てみたい。年齢とともに皮膚が薄くなつていくといふ、自分のお肌。髪を短く切つて襟足が丸見えになつている今。シフォンのスカーフで守りたい。日焼け止めクリーム、ビタミン摂取などと足並みそろえて、今年もアウトドアを楽しみたい。(隔月掲載)

日焼け止め対策したい!

春だもの。「新」を心と体にめいっばいチャージしたいと思うよ。そして今年も海で遊びたいし、家庭菜園もがんばりたい。ああ、それにしてもわたしのやりたいことに必ずくつついてくるのは、日焼けである。海も畑も。もうどうでもいいやと思つたこともあつたけれど、しっかりシ



BOOK



お隣の置き配がヤバすぎる
有手葱
大御所作家からのセクハラで仕事を失い引きこもり生活を送る漫画家の侑季は、ある日、隣に住む主婦の花帆から、自分宛の荷物を代わりに受け取ってほしいと奪われた人生を取り戻そうと奮闘する。暴力への復讐を暴力で終わらせない、侑季の選択を応援したくなる。



シリアの家族
小松由佳
写真家の著者が、難民として各地に逃れたシリアの人びとの姿を描いたノンフィクション。シリア人の夫を持つ強みをいかし、親族や生存者を取材し、恐怖政治の実態を暴いていく。同時に、どんな苦難の中でも、母国再建を信じ、たくましく生きてきた人々の姿も知ることができた。

代田知子さんおすすめの子どもの本 大人もぜひ!



わにおのわのじはどうかくの?
乾栄里子 文
出口かずみ 絵
(幼児~)

まずは絵本『わにおのわのじはどうかくの?』から。自分の名前を平仮名で書けるようになったさるのすけ。わにおに、俺の名前も書いてと頼まれるが、ほかの字はまだ書けない。ふたりは町へ出て、看板の字から「わたあめ」の“わ”や「にくまん」の“に”を見つけていく。文字と出会う楽しさと読めることがうれしくてたまらない子どもの気持ちが、温かい絵とともに描かれる。

『ハチは救急車ねこ』は、山のふもとの動物病院の猫のとらまるが、人間のまちの先生が眠ったあとに毎晩、動物病院を開く「やまの動物病院」シリーズ第4弾。今回は、箱に入って病院前に置かれていた猫のハチが、とらまるに憧れて「救急車ねこ」となり、患者を運ぶお話。人間の先生の施術を盗



ハチは救急車ねこ
ながわちひろ 作・絵
(小学校低学年~)

み見して腕を上げたとらまるは、ハチが運んだアオダイショウを手際よく手術する。絵のたっぷり付いた楽しい物語。

『ハヤ号セイ川をいく』は、家庭事情も性格も違うふたりの少年のひと夏の冒険物語。著名な英国児童文学作家ピアスの1955年デビュー作の新訳版だ。自宅前の川でカヌーを見つけたデイヴィッドは、持ち主のアダムと出会い、財宝探しを手伝つてと頼まれる。両親を亡くしたアダムがこの先も、経済的に苦しい叔母と祖父の家に置いてもらうには、隠された一族の財宝を見つけるしかないからだ。ふたりは、謎めいた詩を手掛かりに、緑ゆたかな川をカヌーで上り下りして財宝を探す。人物造形も自然描写も素晴らしく、映画を見ているように引き込まれる。



ハヤ号セイ川をいく
フィリップ・ピアス 作
エドワード・アーティゾンニ 絵
原田勝 訳
(小学校高学年~)

編集部から

1面取材で訪ねた清瀬支部の事務所。市政の資料や宣伝グッズが積み重なり、支部長のノートにはびっしりと図書館問題のメモが。新市長を誕生させたという誇らしげな顔に、身が引き締まる思い。(佳)